

会派行政視察実施報告書

会派行政視察における結果について、下記のとおり報告します。

令和6年7月19日

光市議会議長 木村信秀様

光市議会 会派「こう志会」 代表 中本和行

議員 萬谷竹彦

議員 林節子

議員 中村 讓

議員 西村 慎太郎

記

- 1 視察日時 令和6年6月20日（木） 9時30分 ～ 11時30分
- 2 調査場所
 - （1）光市防災庁舎
 - （2）光市内河川監視等カメラ
（山田川合流点 花園水路水門付近 虹川 野尻 岩田）
- 3 調査結果 別紙のとおり

調査結果

日時	令和6年6月20日（木）9：30～11：30		
調査場所	光市防災庁舎及び河川等監視カメラ（5箇所）		
調査事項	（1）光市防災庁舎の現地視察 （2）河川等監視カメラの現地視察		
説明者	防災危機管理課長 海老本 卓也 氏 防災危機管理課防災危機管理係長 秋山 和宏 氏	同行者	笹井議員・仲小路議員

【視察概要】

<防災庁舎の概要>

- 総事業費：約9億9,000万円（システム構築、用地取得費、設計費を含む。）
- 構造面積：鉄筋コンクリート造3階建 延べ床面積 1259.80㎡
- 供用開始日：令和6年3月25日（月）
- 整備概要：災害対策本部会議室/災害活動センター/基幹型防災倉庫
非常用発電設備（72時間分の燃料を備蓄）/災害時給水貯留設備（3日分）
排水貯留設備（7日分）
- 整備経緯：防災指令拠点である本庁舎の耐震化が喫緊の課題であったことから、検討を進めていた中、平成30年7月豪雨が甚大な被害をもたらしました。その後、災害復旧事業に傾注する必要があったことから本庁舎の耐震化を凍結し、地震をはじめ風水害等の災害に備えるため、本庁舎敷地内に新たな防災指令拠点を整備し、市民の安心・安全を確保することとしました。

<総合防災情報システムの概要>

- 運用開始日：令和6年3月25日（月）
- 主な機能：情報収集機能/情報共有機能/情報分析機能/情報発信機能

<河川等監視カメラの概要>

- 災害時における監視体制の強化を図るため、市内の河川、河岸およびため池の計15箇所に監視カメラと水位計を新設し、総合防災情報システム上で、カメラ画像や水位データをシステム上で確認できるよう、システム連携を行っています。
※カメラ画像…5分間隔で更新、水位データ…10分間隔で更新

【質疑応答】

- 光市防災ポータルサイト中の水位情報において、危険水位等の記載があるものとないものがあるがこの違いは何か。
→平成30年7月豪雨時のデータをもとに作成していることや、小河川においては情報を更新する間に越水する可能性があることなどを考慮し、過去に越水したところ以外は、堤防高を基準に考えてもらうことを想定している。
- 総合防災情報システムのデータは今後アップデートしていくのか。
→これからデータを蓄積してアップデートをしていく。

【所感】

中本議員

平成30年の7月西日本豪雨で島田川沿線を中心に民家や田畑で大規模な浸水被害ができました。この拠点施設の稼働に合わせて住民の敏速な避難や河川などの状況の把握につなげると。また、パソコンやスマートフォンを通じて河川の水かさが増す様子を市のホームページで確認でき撮影した静止画を10分間隔で見て避難情報を出す時の判断材料にする。カメラ15台と水位計を設置して、より早く瞬時に情報提供出来る。高齢者支援にも手助け出来る更なる整備が必要であり、あらゆる機能を持った施設が整備されたことで市民の安心・安全を守る。島田川沿線では自主防災組織を立ち上げて、共助の要として積極的に支援する体制づくりの構築。豪雨災害に合ったから防災意識を高める。この教訓をして地域のことは地域で守ることが大事であり、私自身も被災して、災害の恐ろしさや災害の備えの必要性を改めて強く感じた。

萬谷議員

令和6年3月25日より供用開始された防災庁舎は、情報収集・共有、情報分析、情報発信等を一元的に管理しており、災害時には間違いなく、実力を発揮できるものだと確信しました。また、中川ダム等の降雨量のデータも集められているとの事で、様々なケースを想定し備えて、より充実していると感じました。そして現地にも行かせて頂きましたが、河川等監視カメラ、水位計も市内15ヶ所に設置され、より詳細なデータ収集が可能となっていて、以前の豪雨災害の教訓が生かされていると感じました。市民の命と財産を守るため、バージョンアップ等も含め、これからはしっかりと最新情報の収集等、取り組んでいきたいと思えます。

林議員

平成30年7月の豪雨災害により島田川流域を中心に甚大な被害をもたらし、あらゆる災害に対応するため、令和6年3月25日に防災庁舎を供用開始しました。総合防災システムは、情報自動収集から災害予測ができ、避難情報を一斉送信できることにより、早急に対応できると感じました。ドローンも災害時の状況を把握でき、河川等監視カメラにより、水位データや画像が確認できるようになりました。現地カメラでは夜の画像も綺麗に映っており、近所にある住宅が映らないよう配慮されていました。現地で目視確認せず、防災ポータルサイトにて河川の状況が安全に確認できるので、河川の周辺に住んでいる方や遠方の家族には安心できるシステムです。ただ、高齢の独居の方には、サイトの閲覧等は難しいので、配慮が必要と感じました。

中村議員

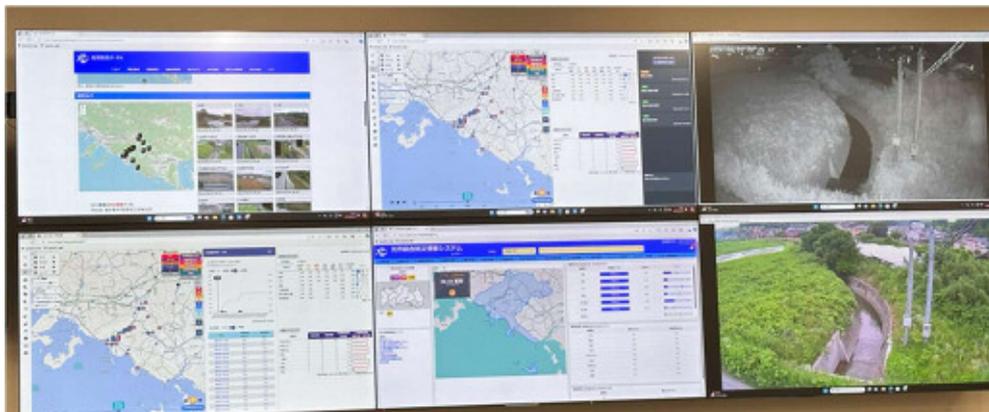
まずは災害時における監視体制の強化を図るため新設された河川等監視カメラ計15か所のうち、5か所を見させていただきました。カメラ画像は5分間隔、水位データは10分間隔での更新とはいえ、河川の状況を現地に行かずに何か所も確認できるのは、かなり判断時の強みになると感じました。防災庁舎内は指令室や会議室、防災行政無線放送室も機能が充実しており、災害時の迅速な対応が可能になっているなという印象でした。今後は、職員の訓練や教育プログラムに力を入れていただき、市民の命と財産を守っていただきたいです。

西村議員

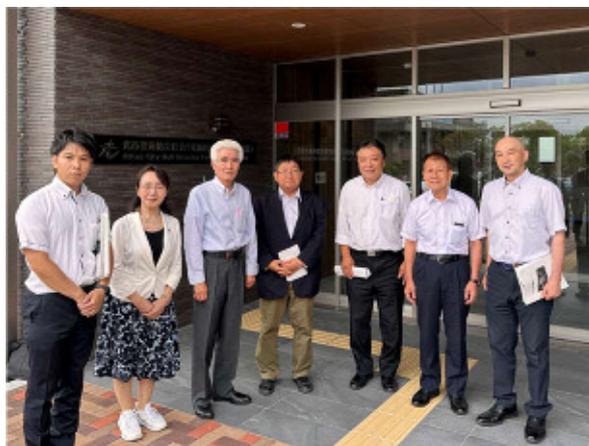
河川等監視カメラ現地視察においては、実物を確認することでカメラや水位計の機能や総合防災情報システムに連携している情報など理解の深化に繋がりました。総合防災情報システムについては、運用が始まって以来、警報等の発令場面がないため実運用についてはこれからの梅雨や台風シーズンとなります。一方で担当課職員の皆様が操作方法の研修等やドローンも含めた研修等の備えをしっかりと実施している点については理解できました。今後も市民の皆様の更なる安心安全につながるよう防災庁舎およびシステムの活用について注視してまいります。防災庁舎での河川等監視カメラ映像確認では、昼夜ともに画像が鮮明であり、しっかりと状況確認が可能であることがわかりました。一方でスマートフォンサイトでの水位表示の確認にわかりにくさがあったことと、民地の草が繁茂したときに視認性が心配であると感じました。今後も定期的確認を実施し、必要に応じて指摘してまいります。



河川等監視カメラ



総合防災情報システム



防災庁舎